MINAMI-ALPS BIOSPHERE RESERVE
南アルプス
ユネスコエコパーク

令和元年度

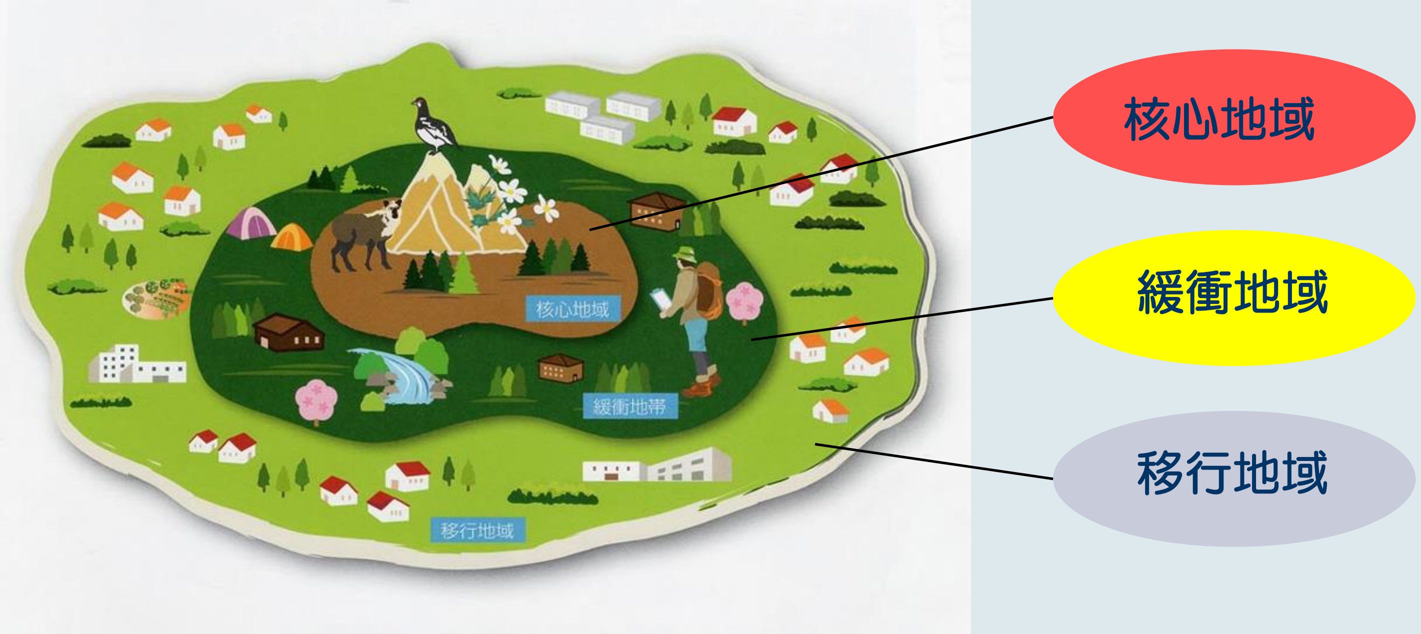
南アルプスユネスコエコパーク推進事業
実　績　報　告

ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）」を目的として、ユネスコが認定する取り組みです。具体的には、「地域の自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指す取り組み」で、世界では「生物圏保存地域（BR：Biosphere Reserves）と呼ばれ、現在124カ国 710地域、うち日本では10地域が登録されています。（2019年6月現在）

南アルプスユネスコエコパークは、山梨県、静岡県、長野県にまたがる、日本最大のエリアを持つエコパークで、山梨県では、北杜市のほか、南アルプス市、韮崎市、早川町が登録されています。

総面積	302,474ha
核心地域	24,970ha
緩衝地域	72,389ha
移行地域	205,115ha



日本のユネスコエコパーク

南アルプスユネスコエコパーク

南アルプスユネスコエコパークは、

2014年（平成26年）6月12日登録！

南アルプスユネスコエコパークのエリア

エリアは、南アルプス国立公園を中心とした地域

➡ 北杜市は、白州・武川をエリアとして登録

核心地域

国立公園の特別保護地区など自然環境を守らなければならない大切な地域で、北杜市では南アルプス国立公園の地域で適切に保護されています。

緩衝地域

核心地域の周辺で、環境教育、野外活動、調査活動等に利用できる地域であり、山梨県立自然公園の地域です。

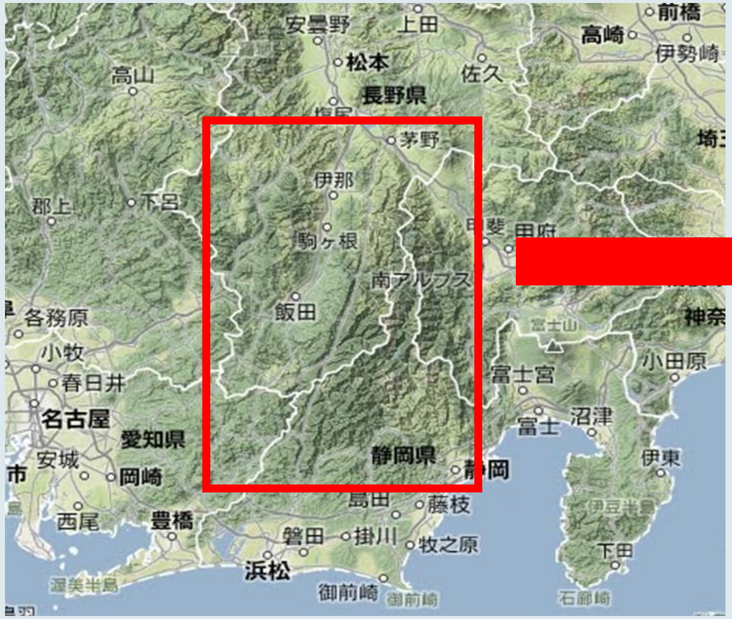
移行地域

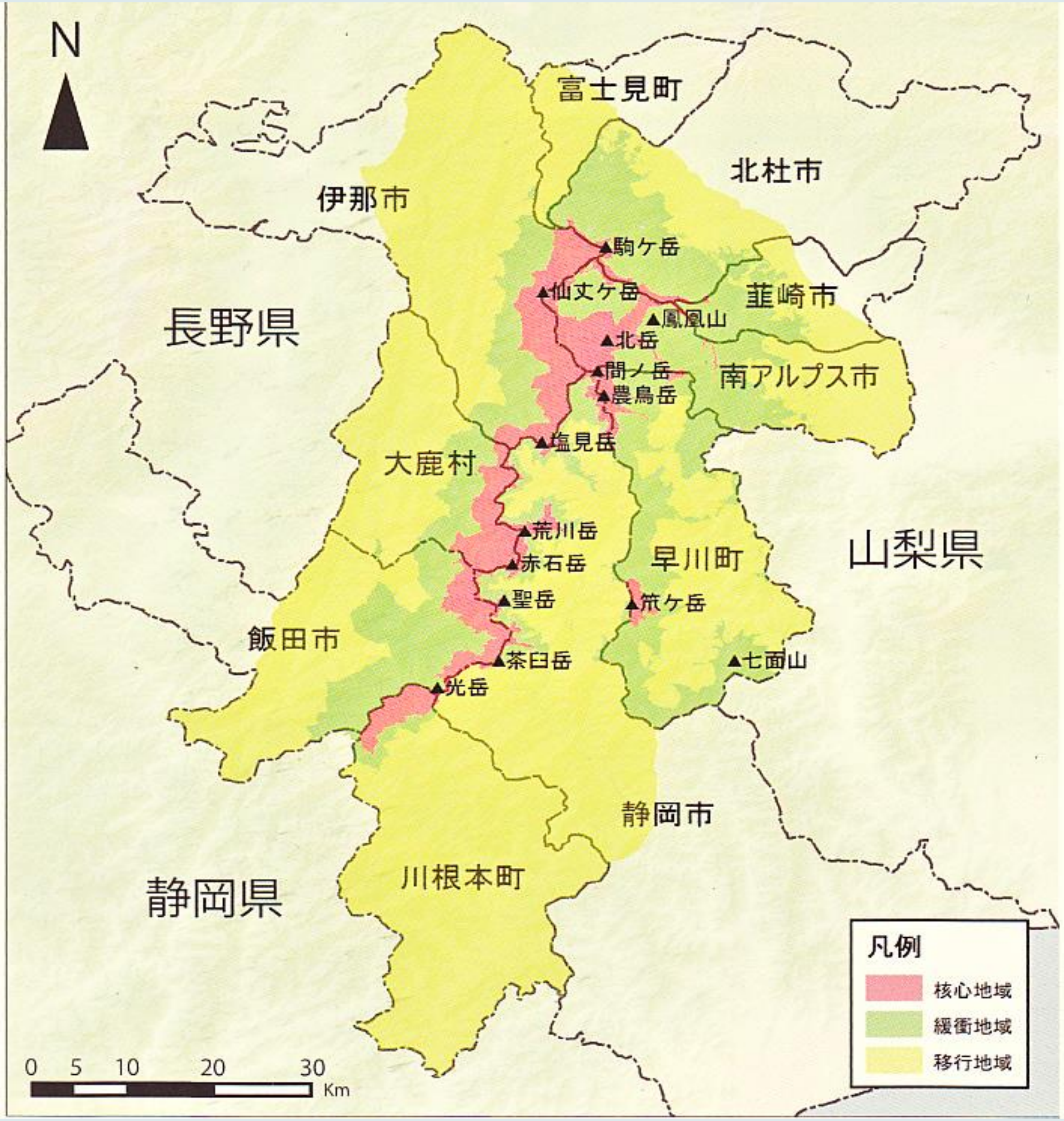
私たちが暮らしを営んでいる地域で、様々な社会活動が行われています。

白州・武川エリアの資源

山	甲斐駒ヶ岳、地蔵ヶ岳、日向山など
景観	山岳景観日本一、尾白川渓谷、精進ヶ滝、桜、里山、田園など
水	清流（尾白川、神宮川、大武川、石空川など） ミネラルウォーター生産量が全国の約３割を占める
産物	米、そば、長芋など
歴史・文化	台ヶ原宿、神社、山岳信仰、民話、虎頭の舞、奉納相撲、大和神楽など

南アルプス
ユネスコエコパーク区域図





総面積　３０２,４７４ha

ユネスコエコパークの魅力は

- 南アルプスの山岳環境を永続的に保全していく体制づくりを行い、豊かな自然環境を守り伝えていくことができます。
- ユネスコエコパークとして、ふるさとの魅力を世界へ発信することで、国内外から観光や教育を目的とした旅行者の増加が期待できます。
- 新しい法律や規制はありません。国内の既存の法律などで管理されます。
- 環境教育や学術研究の実践の場として活用できます。

南アルプスユネスコエコパーク事業の目的

- 甲斐駒ヶ岳を中心とした世界に誇れる貴重な資源を再発見・再認識し、自然と文化のつながりを市民共有の財産として位置づけ、優れた自然環境の継続的、永続的な利活用をはかりながら、魅力あるまちづくりを進めることを目的としています。
（北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会規約より抜粋）

- この目的を達成するため、北杜市では市民、企業、団体、行政が一体となり、『北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会』を設立して、市と協働で事業を実施しています。

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Minami-Alps
Biosphere Reserve since 2014
Man and the Biosphere Programme
ユネスコエコパーク

MINAMI-ALPS BIOSPHERE RESERVE
南アルプス
ユネスコエコパーク

令和元年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

事業名	科目	予算額	決算額
①－１　南アルプス登録エリア内環境整備事業	補助金	１,１５０千円	２３千円
①－２　森林整備等財産区活動支援事業	消耗品費	１,２７０千円	１,１４５千円
②－１　地域連絡会伝統芸能等保存事業	補助金	２００千円	９９千円
②－２　こども公民館劇場事業（北杜もり上げ隊）	報償費	１６０千円	０千円
②－３　動植物生態系調査事業	委託費	１,０８０千円	１,０６７千円
③－１　地域連絡会研修事業	補助金	３００千円	１７４千円
③－２　ユネスコエコパークエリア登録５周年記念事業	補助金	４００千円	３８０千円
③－３　地域の魅力掘り起し事業	補助金	３００千円	２６５千円
④－１　ＰＲ・情報発信事業	消耗品費	１,３７１千円	７４３千円
④－２　中山砦周辺と展望台周辺整備事業（地域連絡会）	補助金	９００千円	５８０千円
⑤－１　関係市町村との連携事業	負担金他	９１８千円	８１８千円

令和元年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

①-1 南アルプス登録エリア内環境整備事業

■ 予算額　１,１５０千円　　決算額　２３千円

エコパークエリア内の環境、景観保全のため環境美化活動を行い、令和元年度は外来植物を学ぶ講座を同時に行いました。高山域への侵入を防ぐとともに、在来植物の保護も大変重要となってきます。

①-2 森林整備等財産区活動支援事業

■ 予算額　１,２７０千円　決算額　１,１４５千円

白州町並びに武川町内の財産区、保護組合の森林保全活動の支援を行いました。

豊かな森が、きれいでおいしい水を育み、里山の様々な活動に潤いを与えてくれます。下草刈りや樹木の枝払い、道つくりの環境整備などに必要な物品購入に活用しています。

②-1 地域連絡会伝統芸能等保存事業

■ 予算額　２００千円　　決算額　９９千円

●民話を楽しみ、民謡、民舞に思いを 発表会（8/31）来場者108名の参加がありました。

②-2 こども公民館劇場事業（北杜もりあげ隊）

■ 予算額　１６０千円　　決算額　０千円

白州小・武川小学校の児童がユネスコエコパークに登録された地域を調査、分析し、発表、検証することで、資源の再発見をし、市内外に情報発信するもの。

令和元年度、白州小では、米づくりや日向山登山などを通して歴史・文化財について学びました。武川小では、地域の方を講師としてお呼びし、例年行っている米づくりに加え、６年生を対象に地質に関する課外授業を、地域連絡会とともに実施しました。

令和元年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

②-3 動植物生態系調査事業　■ 予算額 1,080千円　決算額 1,067千円

概　要

昨年に引き続き「市民参加による生きもの調査」を実施するうえで必要となるリーダーを育成し、市民による生きもの調査の体制を構築することを目的とします。

実施内容

回数	時期	テーマ	概要
第1回	6月	中山の植物調査	平成30年度業務において実施した中山砦周辺や曲足林道周辺において植物調査を実施した。
第2回	8月	尾白川の水生生物調査	白州・尾白の森名水公園周辺の尾白川において河川の生きもの調査を実施した。
第3回	8月	大武川の水生生物調査	武川総合支所周辺の大武川において河川の生きもの調査を実施。尾白川との地点の違いによる河川の生きものの違いを把握した。
第4回	10月	中山の哺乳類調査	中山林道周辺で哺乳類の痕跡を観察するとともに、夜間に活動する哺乳類の実態把握を行った。

令和元年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

③-1 地域連絡会研修事業

■ 予算額　３００千円　　決算額　１７４千円

国内のユネスコエコパークを構成する静岡県井川地区を訪問し、在来作物の農家や加工施設を視察し、交流を図りました。

地域連絡会の活動に良い刺激となりました。

③-2 ユネスコエコパークエリア登録５周年記念事業

■ 予算額　４００千円　　決算額　３８０千円

- 小淵沢フリースペースにおいて、エリア内の魅力や地域連絡会の活動紹介パネルを展示しました。
- 野鳥彫刻家の清水正廣氏、動物画家の故・薮内正幸氏の作品展を、むかわ図書館、ライブラリー白州で開催しました。
- こぶちざわホールにて、「アルプスの麓に生きる-学びと楽しみのひととき-」を開催し、講演会とともに昔話、民話、民踊を楽しみました。

令和元年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

③-3 地域の魅力掘り起し事業

■ 予算額　　３００千円　　決算額　２６５千円

- 武川町農産物直売センター（8月）、道の駅はくしゅう（11月）において、来訪者アンケートを実施。旅行の目的や行き先、満足度などを考察し、報告書にまとめました。
- 5周年記念行事の一環として、中山ハイキングを実施しました。

④-1 ＰＲ・情報発信事業

■ 予算額　１，３７１千円　　決算額　７４３千円

- 認知度の向上を図るため、情報発信拠点である道の駅はくしゅう、甲斐駒センターせせらぎの情報コーナーでの発信を行いました。
- 昨年に引き続き、地域のことを楽しみながら学ぶことができるポップアップカードを作成しました。学校の授業やイベントでのワークショップで活用し、さらなる理解を深めていきます。

ポップアップカード

令和元年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

④-2 中山砦並びに展望台整備事業(地域連絡会)　■ 予算額　９００千円　決算額　５８０千円

概要

　中山展望台からの眺望をより一層魅力的なものとし、市内外からの誘客を図るために、展望台周辺に、中山に自生する低木の植樹を行うと共に、下草の刈り取りを併せて行いました。

　従来から自生する以下の低木を植樹し、高木や優先種の下草刈りを行いました。
　植樹対象苗木　ミツバツツジ50本、ヤマツツジ50本、を昨年に引き続き植樹しました。
　中山が、ツツジの山となるよう、管理していきます。

← 植樹の様子

挿し木苗を育てる →

令和元年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

⑤-1 関係市町村との連携事業

■ 予算額　９１８千円　　決算額　８１８千円

　３県１０市町村で組織する協議会及び山梨県連絡協議会での実施事業の運営、協力を行いました。

山梨県連絡協議会による
南アルプス学講座

３県１０市町村協議会
による勉強会

南アルプスユネスコエコパークをＰＲし、このエリアの素晴らしさを市民に再認識してもらうとともに、後世に守り伝えるため、市民、企業、団体と一体となり事業を進めて参ります。